

## 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

香川出身の猪熊弦一郎（1902-1993）は、丸亀市で育ち、東京とパリで学んだアーティストでした。そのキャリアの後半には、ニューヨークとハワイに長期滞在して作品を制作しています。ヘンリ・マティス（1869-1954）に師事し、マーク・ロスコ（1903-1970）やイサム・ノグチ（1904-1988）、チャールズ（1907-1978）とレイ（1912-1988）イームズなどと交流のあった猪熊は、学際的かつ革新的なスタイルで知られています。彼が独自のスタイルを表現した作品は主に絵画でしたが、彫刻やイラスト、デザインも残っています。

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（MIMOCA）があるのは、丸亀駅前です。美術館は、本人から寄贈を受けた 2 万点ほどの猪熊作品を所蔵し、それらを主な展示として紹介しています。企画展では国内外の現代アーティストを取り上げ、毎年数回の展示を開催しています。

この美術館は、2004 年のリニューアル時にニューヨーク近代美術館の再設計も手がけた、谷口吉生（1937-）による設計です。箱のような形とミニマリストなエントランスが特徴的な MIMOCA の正面には、猪熊の彫刻 3 体と巨大な壁画が設置され、訪れる人を迎えます。これらの作品は、周囲の都市環境へ建物が溶け込むのを助けています。一方で内部には、高い天井、シンプルな照明、豊富に用いられた直角が、アート作品から注意をそらすことのない抑制された空間が造られています。